

銚子市の治安

1 銚子警察署の概要

銚子警察署は明治11年に八日市場警察署(現在の匝瑳警察署)銚子分室から銚子警察署として独立し設置されました。その後、警察法改正に伴い、自治体警察から千葉県銚子警察署に移行しました。移行時は市内新生町に庁舎が有りましたが、昭和48年に現在の春日町に移転し、現在に至ります。

2 銚子市内における犯罪発生状況

(1) 刑法犯認知件数の推移

千葉県では、平成14年に過去最高となる168,366件の刑法犯認知件数を記録しました。その後減少に転じ、平成20年には100,827件、平成28年には57,277件となり、減少傾向が続いております。

銚子市内を見てもみると、千葉県の情勢と同じく、平成14年に過去最高となる1,517件となりました。その後減少傾向に転じます。平成20年及び平成24年に一旦増加となりましたが、長期的には減少傾向が続き、平成28年には519件となりました。

(2) 銚子市における特徴

平成28年中に最も多く認知した犯罪は窃盗で403件でした。窃盗の手口別では、空き巣や出店荒しなどの侵入窃盗が85件、万引きが62件と多く、窃盗以外では器物損壊が46件発生しています。凶悪犯罪では、殺人1件、死体損壊・遺棄1件が発生しました。強制わいせつ(改正後罪名：強制性交等)も12件発生しましたが、犯人を検挙した後は同種事案の発生はありません。

3 体感治安向上に向けた各種施策の推進

(1) 犯罪抑止活動の推進

安全で安心できる地域の構築には、あらゆる側面から多種多様な手段を用いて取り組む必要があります。

警察は、犯罪発生状況の分析結果に基づき、犯罪多発場所や被害が予測される場所を中心とした警戒活動、街頭等における広報啓発活動、各家庭や企業を訪問して注意喚起の実施等の活動を行っています。

(2) 官民一体となった活動の重要性

警察では、限られた人員で最大限の実効を挙げるべく各種施策を推進していますが、安全で安心できる地域の構築には、よりきめ細やかで地域実態に即した活動の展開が必要不可欠です。

そのため、地域の実態を最も熟知している地域住民、企業の皆さんの活動が重要となります。

地域に根ざした活動を展開していく中で、些細な変化を敏感に察知することが可能となり、また地域を見守る防犯の目として、まさに地域防犯力の根幹を担っているのです。

(3) ボランティア活動の重要性

銚子市では、銚子市防犯指導員189名、地域防犯パトロール隊255名、千葉科学大学警察支援サークル「スターラビッツ」をはじめとして、さまざまな防犯ボランティア団体が活動しています。

地域の防犯力を高め、犯罪を発生させない環境作りには、警察のみならず、地域住民の方々と協働した防犯活動を展開することで、真の安心安全確保につながっていくのです。

4 現状と今後の課題

(1) 新たな犯罪に対峙する各種施策の推進

刑法犯認知件数は減少傾向となっておりますが、時代の変化とともに新たな手口が現れております。

「電話 de 詐欺」もそのひとつです。「電話 de 詐欺」という名称は千葉県独自のもので、平成27年に特殊詐欺に関する新名称を公募した結果、この名称が採用されました。千葉県内における「電話 de 詐欺」に被害は、平成28年度中1,104件、被害金額は23億3,396万3,874円となっております。警察官や親族や警察官を騙るオレオレ詐欺、市役所や保険事務所を騙る還付金詐欺などが主な手口です。

銚子市における被害は4件、被害金額は1,065万302円、銚子市に居住する高齢者を中心とした防犯指導、被害場所となり得る金融機関や各種商業施設職員に対する水際対策の強化、銚子市と連携した防災メールの発出等を行い積極的な広報啓発活動を展開しています。

(2) 「銚子」に根ざしたボランティア活動の活性化

地域住民の方や地域に根ざした活動を展開している企業の方々は、正に「銚子を見守る目」として、地域防犯力の要となるものです。昨今、各種報道等において防犯カメラの有効性が認められているところではありますが、地域の方々の「銚子を見守る目」は、これに勝るとも劣らないものなのです。

日頃の散歩や買い物、仕事などで外出する時に、その地域の様子を「銚子を見守る目」で見ってもらうことで、地域の防犯力は格段に向上します。

日常を通じたボランティア活動が治安維持につながるのです。